



近森会グループ

びろっば

3

Vol.260

発行 ● 2008年2月29日

www.chikamori.com 高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

第一回 合同パス大会

第20回 近森病院クリニカルパス大会 (治療計画書)

高知赤十字病院

近森病院

2008年1月27日(日曜日)、コンフォートホテルで

近森病院クリニカルパス委員会 委員長/脳神経外科 部長 高橋 潔

医療の標準化を病院レベルではなく、地域で!

岡田 光生 (TDr)



第一回近森病院・高知赤十字病院合同パス大会(第20回近森病院クリニカルパス大会)は258名の参加を得て開催されました。▼合同ミーティング(準備委員会)



後列左から畠中 豊人(司会:T麻酔科Dr),久保田 聡美(T総Ns),佐藤 亮介(T管理栄養士),小松由季(T医事課),西内 美奈(TNs),猪野 由理(T薬剤師),中西 晴幸(N薬剤師),川島 加奈(N管理栄養士),岡村 太朗(N医事課),川島 和香奈(NNs),前列左から高橋 潔,副田 悦子(TMSW),澤田 晴生(TDr),田井 由紀(TNs),小松 ひろみ(NNs),岡本 博司(NDr),浜口 伸正(Nパス委員長),廣田 明美(NNs),尾崎 悦子(NNs),鍵本 由紀(T事務局)

※青字は発表者、Tは近森病院、Nは高知赤十字病院を示します(敬称略)



挨拶に立つ高知赤十字病院院長の開設(かいほつ)展之(のぶゆき)先生▶



これまでは院内のパス改善を目標に行ってきましたが、地域連携さらには地域の医療の向上を目的に地域の中核病院同士が集まっ

て同じパスを議論するという画期的な試みでした。医療の標準化を病院レベルではなく、地域で共有しようとの取り組みの始まりと考えています。病院の機能の分化が進み急性期病院はますます入院医療に特化し、地域の医療を支えていく立場になると考えています。そのときに、中心となる病院同士がより良い質の高い医療を展開しようと切磋琢磨していくことが大事で合同パス大会がそのツールの一つになるのではと考えています。

パス大会では両方の病院の内視鏡的胃瘻造設術のパスが紹介され、さらには全国の先進的な病院とのベンチマークが試みられました。パスへの取り組みが進んでくると病院間でも標準化が進んでくると感じています。二つの病院とも医療の内容には満足できるレベルに達してきていると感じましたが、在院日数の長さや適応のばらつきなど医療連携の面ではまだまだ改善の余地があるようです。

多くの参加者が得られたのですが大人数になるにつれ質問が気楽にできなくなってきました。もう少し活発な議論ができるような場にしたいと考えています(準備委員会の方が盛り上がりました)。来年は高知赤十字病院の担当で予定しています。

闘病記



近森 正幸

61歳の大厄の年を迎えた昨年の11月中頃、突然唇が腫れだした。数日で腫れはひいたが、腰の周りに蕁麻疹が出始めた。還暦のお祝いをしてもらったころから、体質がしだいに変わりつつあるのを感じる。使い慣れた薬を飲んでいて、あまり効果がないので、新しい薬に何度か変え組み合わせも考えて飲んでいて。

最初は原因がよくわからなかった。最初は原因がよくわからなかった。食事や生活パターンをいろいろ変えてみたが、どうもお酒を飲んだときと、カニを食べたときが駄目

で、ひどいときは全身に出るようになった。

とうとうワインを飲めない身体になってしまったのではと、一時は絶望的になったが、いろいろ試した結果、物理的刺激とアルコールで温められた皮膚の温度と室温の差がよくないことが分かってきた。そこで、夜寝るときは掛け布団は薄目にして、パンツをはかず寝間着はゴムの無いワンピース状のものに変えた。

皮膚科をしている長女に叱られながらアドバイスを受け、できることはなんでもして、ようやく蕁麻疹も収まってきている。

ところが、お酒で火照った身体を充分冷やして、温かくない布団に入ったため、てきめん風邪をひき、おまけに下痢をして、お正月太りした身体が2キロも減った。悪いことばかりではないし、当分は蕁麻疹と仲良くつき合っていこうと思っている。(理事長・ちかもり まさゆき)

コミュニケーション委員会主催勉強会 「美しい日本語を学ぶ」 研修会

うけたまわ 「はい、承りました」

コミュニケーション委員会 代表委員
近森病院第二分院 総看護師長 松永 智香



講師に「人・みらい研究所」
筒井典子代表を迎えて

『ひろっぴ』256号(2007年11月)の院外エッセイ欄に登場された「人・みらい研究所」の筒井典子代表を講師に、2月12日・13日「美しい日本語研修」を開催いたしました。医療の知識や技術に直接は関係のない勉強会ということで、職員は集まるのだろうかと内心少し心配しておりましたが、事前に240名以上の希望があり、両日とも満員御礼の状況で研修が実施されました(美しい日本語に対する皆さんの要望が高いこともよくわかりました)。

また、本来なら2時間30分かけて行う研修を1時間15分で行ったのもコミュニケーション委員会の賭けでした。(さすが!近森会グループの皆さん、1時間以上短縮された時間設定でも、

凝縮して、存分に学べたという手ごたえを感じました)。

近森会グループでは毎日たくさんの勉強会があり、これ以上現場のスタッフの皆さんに負荷をかけてはいけないという片岡真一委員長の思いがありました。コミュニケーション委員会の開催は2カ月に1回としております。このたびも、スタッフたちに負担がかからず、自分自身や現場の患者さんにお返しできる研修を企画・運営したいと考えた次第です。

筒井代表は、「普段より短い時間にどれだけ伝えることができるのか不安でした」とおっしゃっていましたが、受講者たちからは、「時間があつという間に過ぎた」「楽しかった」「面白かった」

「わかりやすかった」「また、こんな勉強会をしてほしい」などという嬉しい反応が返ってきております。

私はというと、患者さんやご家族、そして仲間たちに「はい、承りました」と自然な返事がいつもできたら良いなあなんて考えながら、今日も現場に出て行きます。皆さん、テレないで、一緒にやってみませんか?



講師に株式会社麻生飯塚病院
花岡夏子看護部長をお迎えした

院内の看護師教育に関わりつくづく感じることは、「教育」の難しさである。振り返れば「人に教える方法を学んだ」と言える程のものを学校の教育課程で学んではいない。にもかかわらず、入職数年も立てば「プリセプター」として新人を教え、もっと経てばリーダーとなる。不安にならないはずはない。「こんな教え方でいいのだろうか」から始

「リーダーナース育成」研修会 せねばならないより「おもしろそう」で

近森会グループ看護部 教育委員 援護寮「まち」施設長 杉村 多代



まり果ては「こんな私でいいのか」と悩む。2008年2月9日(土)に行なわれた勉強会は、そんな看護師たちにぴったりだった。

福岡県から株式会社麻生飯塚病院(麻生前外務大臣のご子弟が院長)の花岡夏子看護部長を招き、リーダーナースの育成について講演していただいた。中でもスタッフのモチベーションアップのための方法論「フィッシュ理論」(※米国の魚市場で始まった。「せ

ねばならない」より「おもしろそう」を原動力に実践しよう。人を喜ばせる。注意を向ける。態度を選ぶ。遊ぶの4原理で構成されている)は、問題点を見つけるのは得意でも誉めることが苦手な私たちにとって目からうろこだった。

参加者からは「育成方法が分からなかったのがすっきりした」「自分の指導方法を振り返るきっかけにしたい」などの意見があり、今後はフィッシュ理論が浸透した楽しい職場に乞うご期待。

● 3月の歳時記 ●

タンポポ



画 千光士可苗

文 近森リハ病院 医療相談室 久保田 華代

たんぽぽはキク科の植物です。春に黄色い花を咲かせ、綿毛のついた種子を作ります。生命力の強い植物でよくアスファルトの裂け目などからも生えています。

古くからヨーロッパでは食用として葉はサラダなどに根を乾燥させたものはコーヒーの代用品として知られています。英名のタンデライオンはフランス語で「ライオンの歯」を意味する語に由来しますが、ギザギザした葉がライオンの牙を連想させることによります。花言葉は「別離」です。

第36回 医療功労賞

読売新聞社主催、厚生労働省など後援、エーザイ協賛

高知医療センター総合周産期母子医療センター・センター長の吉川清志先生と、近森会の梶原和歌看護部長の二人が「医療功労賞の高知県受賞者」に選ばれたのに続き、梶原部長は**全国で20人程が選ばれる「同賞中央の部」でも受賞が決まった。**

梶原部長が高知女子大学を卒業した時代は看護学の草創期で看護を学問として体系化する気概に燃えている人が多い時代だったそうだ。現場こそ理論の原石の宝庫と思っていたとき、「貴方のやりたい看護をやってください」と、神経科クリニックの院長に誘われ婦長として就職。クリニックから病院へさらに姉妹病院づくりへと看護管理に携わり、その間、高知で初めて病院からの訪問看護や思春期グループの集団療法などその時々必要なテーマに取り組んで17年。

その後、近森会看護部の改革のために看護管理者として就職し20余年を経過した。「こういう賞をいただける歳になったということだから」と、梶原部長には『ひろっぱ』のインタビューになかなか応じてもらえなかった。それでも「後進の励みになりますから、そこを何とか...」で、やっと取材は叶ったが、「地域医療のために次々と挑戦してきた近森会の、地域に果たした役割に対する評価を、看護部が代わって受けると解釈しています」。これが開口一番の梶原部長のコメントだった。

▼2月19日開催の職員対象の勉強会



2007年5月から、総合心療センター近森（近森病院第二分院・メンタルリハビリテーションセンター）において統合失調症の当事者・家族を対象とした**心理教育プログラム**を行っています。心理教育では病気や障害に関する知識や情報を伝えるだけでなく、グループワークを通して病気や障害からくる様々な問題や困難への対処法を身につけられるよう支援していきます。



表彰状には「困難な環境のもとで長年にわたり医療活動に従事し」とあるが、梶原部長にはじつは「困難な環境」はピンと来ないようだ。「いま振り返ってみると民間病院での看護の充実のためには厳しいものがあっただけでも、看護独自に動くのではなくダイナミックな組織変革の中で、病院あげて知恵を出し合い試行錯誤を重ねるといものすごい渦中をともに生きることができたわけで、充実した日々そのもの」だったという。職員皆が「患者さ

家族への心理教育プログラム「ツールキット」

家族のちからを引き出すために 脇を支える専門家として

医療福祉部 第二分院相談室 曾根 宏一郎



▲資料の一部を手に曾根 SW

▼グループに分かれて思うところを披露



また心理教育の重要なアプローチとして本人や家族が問題を抱えながらも自分らしく生き生きとした生活を営めるちからを身につけられるように、つまりエンパワメントしていくことが挙げられます。

もともと厚生労働省の委託研究「ツールキットプロジェクト」に参加することでスタートした心理教育プログラムでしたが、実際に参加したご家族から高い評価をいただき、継続を望む声も日増しに高くなっています。

「専門家主導で家族を支える」スタンスから「家族のちからを引き出すために脇を支える専門家」のスタンス

んにとっても医療従事者にとってもお互いができるだけ快適に過ごすにはどうしたら良いか」を日々意識的に考え努力しているわけで、リーダーはその風土を大切にしつつ、一步離れた目をもって、現場を注意深く観察し実行につなげていくことが求められるという。

「看護部門の代表として自由に言わせてもらうなら」と前置きされたうえで、「現場を変えていく推進力は看護が担うべきだと考える」。というのはスタッフステーションの主で、関係職種の動きが一番見える場に24時間おり、しかも看護師が患者さんにいちばん近い存在だから、患者さんにとってどうかを考えることが病院の在り方に繋がると、常々そんな風に考えておられるのだそうだ。

新卒看護師の離職率が9.3%、在職看護師の離職率が12.3%（日本看護協会全国平均）といわれるなかで、近森会の新卒看護師の離職率はゼロで推移し在職者の離職率が7%で推移していることをとても嬉しいという。それは四国管財スタッフの丹精による保育室の充実や教育委員会のメンバーを中心とした教育プログラムの充実、さらには仕事に対するやり甲斐感や達成感を高めていくプログラムなどがあつたからだというが、職場環境を整える要素は多方面に亘り梶原部長の支える采配が今後ますます光るのだろう。3月10日には、皇居で両陛下に拝謁し、医療功労賞の表彰式に出席予定となっている。

へ……。ご家族の変化にスタッフも心理教育プログラムを通して多くのことを学ばせていただきました。

「ツールキットプロジェクト」を通じて、心理教育プログラムの有効性と必要性を実感し、また専門職として豊かな視点を持つ機会を与えていただいたと思います。

新任です。
どうぞよろしく



泌尿器科部長 谷村正信

初めまして、泌尿器科部長として2月1日に赴任しました谷村です。

私の出身の高知大学泌尿器科学教室も医局員不足で、ご不便をおかけしましたが、今回の人事異動で3人体制となり、フットワークも軽くなりましたので、必要な時はいつでもお声をかけて下さい。

近森病院は、病院の性格上、血尿・結石・感染症の患者様が多く、尿路上皮癌などの重大な基礎疾患を持っておられる方も多いためです。今後は、これらの患者様のチェックも積極的にしたいと考えております。他科の先生方、ご紹介お待ちしております。

泌尿器科の医療もここ10年で様変わりし、各種ガイドラインの導入による医療の平準化、オーダーメイド治療、低侵襲性医療などが推進されてきました。

当科としても、患者様に対する更なる低侵襲性の医療の提供とともに、近森病院グループの一員としての活動を続けて参ります。至らぬ点もあろうとは思いますが、なにとぞよろしく申し上げます。

●8面のニューフェイス欄もご参照下さい。

味格しました。
乞熱烈応援。

第二分院 医療相談室 主任
二宮 美佐

流れが激化している精神科医療の中で、総合心療センター近森を利用される患者様が精神疾患を持ちながらも自分らしく地域で生活できるよう、またそれをサポートされるご家族にも『困った時のソーシャルワーカー』と頼りにされるような存在になれるよう全力を尽くしたいと思います。まだまだ未熟な点も多いですが、自分に与えられた役割と広い視点を持つことを意識しながら、患者様・ご家族に対する質の高い生活支援を目指して、現場スタッフの力をフルに活かせるような雰囲気作り及び自己研鑽に努めて参りたいと思います。

近森病院 医療相談室 主任
前田 英武

近森会初代ソーシャルワーカー(以下SW)である高橋紀子さんが在職中に執筆された「あたりまえの人たち」を読んでSWという仕事に興味を持ち、他の病院で働き出してから近森会のSWに公私ともに影響を受け、とうとう自分も近森会のSWとなり、あっという間に1年がたちました。救急医療現場のスピード感に負けないよう、かつ救急医療を受けたばかりの患者さんの心理状態に呼吸を合わせられるよう、自分自身も「より迅速かつ的確に！」を心がけた1年でした。

諸先輩方の積み上げてきたものを少しでもシステム化・言語化・標準化できるように、新たな立場



で精進したいと思います。ご指導ご鞭撻お願いいたします。

近森リハビリテーション病院 医療相談室
主任 宮川 あゆみ

急性期病棟から回復期病棟へソーシャルワークの場を移し、患者様の在宅復帰のために日々勉強しているなかで、このたび主任心得の辞令を頂き、身の引き締まる思いです。

これからも病棟チームの一員として患者様・ご家族様を支援していくと共に、室長の補佐的役割を果たせるよう頑張っていきたいと思います。

近森オルソリハビリテーション病院 主任
川上 めぐみ

近森会に入職してから精神科、救急、老人保健施設、そして現在は整形外科専門の回復期と様々な部署で働かせていただき、近森会の動きとともに、いろいろな事を経験させてもらってきました。新しい病院がオープンし約5ヶ月。

ほとんどの患者さんが元の生活に戻られますが、介護保険などを利用して入院前より安全で健康な生活を送れるよう患者さん・ご家族・スタッフと一緒に考えていきたいと思っています。みなさま、今後ご指導よろしく申し上げます。

近森会管理部 診療支援部 主任 奥田 興司

今回思いもしていなかった主任という配役を戴きました。はたして自分がこの病院にとって本当に役立っているのだろうか？と考えてみる。特別大きく病院に対して利益を生み出すわけでもない、いつ「明日から来なくていいから」という言葉を聞くのだろうと不安になる時もある。その為にも自分の得意な分野で誰にも負けない知識と向上心をもつ事が大事だと感じる、とくに最近思うのは今生で自分は何をする為に生まれてきて何を学ぶ為に一生を費やすのか、すごく難しい内容だと思うただ今の自分に出来る事は、ほんの少しでもいいから昨日の自分より進んだ自分がある事を目指す事がいつか大きな成果になると信じています。そして、天国にいるおじいちゃんとおばあちゃんに今生でこんな事をやってきたって、いっぱい自慢したいな。



在宅患者さんの呼吸管理のフォローはむろん、ご家族の精神的ケアの大切さ等々学びました。

CCU病棟看護師 平賀 弥江

私は去年の4月から12月まで沖縄県にある浦添総合病院に研修に行ってきた。今回は研修の報告と感想を書きたいと思います。

浦添総合病院は病床数302床の地域医療支援病院です。私は呼吸器内科・外科、循環器内科・心臓血管外科の南4階病棟で研修を行ってきました。

南4階病棟の特徴はレスパイトケアを行っていることです。レスパイトケアというのは在宅で呼吸器を使用している患者さんのショートステイのことです。

病棟では、在宅で呼吸管理を行なう患者さんやご家族に対して呼吸器管理の導入から他の医療関係者と連携を取り、在宅で呼吸器管理がスムーズに行えるように看護を行なっています。

そしてレスパイトケアとして定期的に入院の受け入れを行なっています。レスパイトケアを利用する理由は、介護負担の軽減や、家族の用事（旅行や趣味とか）、台風等の自然災害に備えて利用する患者さんもいました。家族の中には、呼吸器のアラームや、吸引等で夜間一睡もできない、自分の時間を持つことができないといった悩みや、不安を抱いている方がたくさんいました。患者さんのケアはもちろん、レスパイトケアの場合とはくに



●研修中に病院での写真は撮れませんが、その代わりに、とっても気持ちのいい真つ青な空と海をお届けしましょう！

家族の精神的ケアがとても大切な看護であることを学びました。

研修中には、本島はもちろん、宮古島・石垣島・竹富島・西表島に観光にも行って来ました。海はきれいでご飯

もおいしく沖縄が大好きになりました。今回の研修で学んだことをこれからの仕事につなげていけるように努めます。

院外エッセイ

燃えているヒト、燃えている花

高知女子大学 生活科学部
健康栄養学科 教授 渡邊 浩幸



1960年8月5日、栃木県生まれ。専門は食品学、食品機能学。企業での研究開発を経験し、生み出した商品は調理油（エコナ）、お茶（ヘルシア）など。現在、もっと野菜を食べてもらうために、野菜の持つ未知の機能や魅力を研究中。

燃えているヒト、何かを目指し、やる気があり、力強く頼りがいのあるヒト、ギラギラと熱く輝く眼をして、目標に向かって一歩ずつ前進するヒト。こんなヒトを熱血人といったりしますが、身体の中で何かが燃えているから熱い血潮が流れている、と表現しているのでしょうか。

「燃えている」を広辞苑で調べてみると、「気力、情熱、感情が盛んに起きる」とありました。言葉の世界だけを調べると、情熱ややる気を持っているヒトは熱く見えるから「燃えている」と表現しているようです。

ヒトの体温は、脳の設定温度を維持する部位で、いくつかのメカニズムが働き合って維持されています。例えば、身震いをおこして身体の中の糖分や脂肪を燃焼して熱に変えたり、血管の動きを調節したり、汗をかいたりして制御しています。

体脂肪を分解し燃焼して熱に換える仕組みは、実はダイエットの際にお世話になっている機能なのです。あまり脂肪が溜まっていない褐色脂肪という部分や筋肉には、UCPという不思議な成分が含まれています。

このUCPが多くなると、糖や脂肪を燃焼させて容易に熱に換えてしまうのです。UCPは、規則正しくバ

ランスのとれた食生活を続けたり、定期的な運動をすることで体内に保たれるそうです。

そして、いくつかの研究からは、“気力”は体内の燃焼性の高さとの関係がある、ということもわかってきました。

地味であり人目に触れることのない花、座禅草は、いわば「燃えている花」です。姿は、お坊さんが座禅をしている様子に似ていて冷地に自生しています。氷点下が続く外気温でも、花のついた太い軸の部分の温度を20度ぐらいに保ち、周囲の雪も融かして生きています。軸からの熱はヒトと同様にUCPによって作り出されているのです。



座禅草。写真提供は座禅草の有名な弘川群生地のあるびわ湖高島観光協会

どうやら多くの生物は、身体を燃やしながら熱を出して生き続けようと頑張っているようです。その手段には、UCPが関係している場合があります。

燃えるヒト、やる気のあるヒトを目指して、規則正しい食生活と適度な運動で身体の中のUCPを増やしてみませんか。

高知文芸短編小説で入選



▲高知メンタルリハセンター地域交流活動室には、利用者の皆さんが作った**原田信子さん入選**の新聞記事が、バンと目立つ位置に飾られている



好きなことをじっくり続けていたらきつと花開く。そんな嬉しいニュースが飛び込んできた。短編小説創作部門で一等賞に入賞したのは支援センター「こうち」の原田信子さん。持っていき場のない孤独感を原田レンズを通し、短編小説に昇華。「まるで自分のことが描かれているみたい」「独りじゃないと救われた」等々受賞後の反響はうんと大きかった。これを励みにまた一歩上を目指し執筆活動が続く。

管理部長のカンタン**こだわり**料理 24

しめ鯖と棒鮓



川添 昇

画 臨床栄養部(第二分院)科長 吉田 妃佐

中国からの輸入食品の残留農薬が問題になっているが、ついに輸入のしめ鯖にも入っていたとのことである。地産地消、自分で作れば全く問題ないのだが。

[1]今回使う鯖は、土佐沖のゴマ鯖・清水鯖である。大学生の頃、帰高すると必ず母が大橋通りに連れて行ってきて好きな魚を買ってくれた。夏は鰹、冬は鮓が定番であった。いまでも健在のその店で「しめ鯖にしたいんですけど」と頼むと、トロ箱の氷に埋もれていた丸々とした大ぶりの見事なヤツを出してくれた。斑点が鮮やかで全体が青と白で輝いていた。お店の人の顔も自信たっぷりにニコリしてくれた。三枚におろしてもらって大急ぎで帰った。

〈作る〉**①**塩をたっぷりまんべなくまぶし、冷蔵庫に3時間以上置く(夏場以外なら涼しい処でも可)。**②**200cc ぐらいの酢にダシ昆布を2、3枚に切って入れ砂糖をお好みで加え、ビニール袋に入れておく。**③**鯖を水洗いしてよく塩を落とし、キッチンペーパーなどで水気を除く。**④**②に鯖を入れ1時間程(しめ加減はお好みで)入れておく。**⑤**④から鯖を取り出し、水気を除き、中骨をていねいに抜く(大きな毛抜きのような専用器具あり)。切身の頭の近い方から皮を剥ぐ。わりあい簡単に剥げる。

[2]片身を刺身に、残った片身は棒鮓に。
〈作る〉**①**あらかじめ酢飯(シャリ)を作って冷ましておく・ご飯はだし昆布を入れて炊くとおいしい・酢と砂糖は味見してお好みで・しょうがのみじん切、ゴマもお好みで**②**ラップの上に鯖を開いた身の方を上にしてその上に酢飯を置いていく。あまり多くないほうが私の好みだが**③**ラップを巻いて巻き簀(すだれ)で棒状になるよう形を調べて涼しい処に置いておく。

〈味わう〉

棒鮓のセットが終わったらやっと食事がスタートできる。仕事のあとのビールは旨いが、シメ鯖にはシャンパン(スパークリングワインで上等)が良く合う。しっかりワサビを付けて口の中に入れると、酸っぱ味でまず唾液が湧き出し、塩気と濃厚な脂の乗った鯖の旨味が襲ってくる。東京農大の小泉武夫先生ならここでピュルピュルとかジワジワとか擬音が入ってくるが小生はそれは使わない。間髪を入れずシャンパンをあおると、口の中は極至福状態となる。飲みかつ喰らったあとはシメに棒鮓を切って食べることとなる。「鮓にはやはり日本酒、大吟醸」などと言いながら延々と早春の夜は更ける。

リレーエッセイ

海外での結婚式

訪問リハビリテーションちかもり 理学療法士 片岡 千春

▼15年ぶりの家族旅行



私事ですが結婚してから2年が経ちました。今回は、結婚式のエピソードについて少し紹介したいと思います。

私たちの結婚式は、家族旅行と新婚旅行を含めガムの教会で行いました。ご存知な人もいらっしゃると思いますが「卵」のくつついた可愛らしい教会です。

海外挙式の段取りはというと、旅行会社に何度か通って日程や結婚式のオプションを決めることや衣装を調達することぐらいだったので、意外と楽に準備は進みました。

式の前日に現地に入り、挙式自体の打ち合わせはたったの15分。1枚のプリントを渡され挙式の流れを少し説明してただけでした…。

さて、そんななか結婚式は一体どうなったかという??国内の結婚式と同じで私たちも何箇所か答えるところがあるのですが、緊張のあまりそのタイミングをすっかり忘れてしままいドキドキの状態です。進行しま



した。

それを察知したのか、ジャン・レノに似た神父さんがウィングをして合図してくれたおかげでなんとか無事に結婚式を終えることができ、今に至っているわけです。

他にもちょっとしたハプニングはありましたが、久しぶりの家族旅行もでき楽しい時間が過ぎました。これから結婚する皆さんにぜひお勧めしたいと思います!



日々粛々 平凡がいちばん。 想いは秘そやかに

高知女子大学で国文学を学び、男女雇用機会均等法第一世代として卒業後近森会に就職。施設用度課でイスを暖めるヒマなく病院中を飛び回っている、と10年前、近森会に就職して2年目の久保さんをこの欄で紹介した。

月日は流れ、いま彼女は訪問看護ステーションラポールちかもりの訪問看護師として、やはり事務所のイスを暖めるヒマなく、朝から夕方までずっと訪問に外へ出ている。

施設用度課で西に東に忙しく飛び跳

ねながらも一方で、「自分の不確かさに対する不安から逃げたい一心」だったそうで、高知医科大学医学部看護学科の受験を思い立つ。当時、英会話クラブで話をしていた精神科のスタッフの、「やり甲斐を持って楽しそうに仕事をしている姿が羨ましくて…」で、思い切るなら今しかない！と決心したのだった。

思い返せば「思春期の頃から自分の心の動きには人一倍敏感だったし、漠然とした精神科看護への憧れも強かった」。「でもこれもきっと後づけの理由なんだろうけど…」と、言葉を探しながら、しばし沈黙。人とのこういう何ともいえない距離感やタイミングの微妙なテンポの違いが、訪問で接する利用者の方々には優しい癒しや救いとして「響く」のではないだろうか。

強い自己主張を秘めているようで、外面のあたりは常にソフトだし、まず相手の思いに注意を払い、「心のおみみたいなものを共に考えましょう♡」とニコリ柔かく微笑むようすは、確かに訪問看護師が天賦の職業だと確信させる。

慌てて人生の結論を出す必要はない。自分のこれまでも、訪問で出逢う利用者の方々にも、そんな思いを持っている。家族が病氣や怪我で大変だったり、自身も40歳近くで第二の職業を志したりと、随分きつい時期もあった。

しかし、「人生思い込んだらまっしぐら」だった若い頃のエネルギーはそのままに、いま仕事が楽しくて仕方ない。英会話クラブで一緒だった精神科スタッフの楽しそうな仕事に、いま自分が就いているという充実感があるのだ。

さらに、一つ目の大学時代か

▼「訪問で関わる皆さんの生活の主体はあくまで皆さん方にあるわけですので…」。関われば関わるほど色々な思いが深まる…



▼クラシックバレエ教室で (恥ずかしいですが)



ら好きだったモダンダンスはいま、クラシックバレエに進化して、週末はずっとその趣味に浸って過ごしているのだそう。よさこい祭りの申し子のような青春だったが「よさこいはもう卒業」で、いまはバレエの奥の深さを味わい満足感に浸っている。

ウイークデーは訪問で色々な皆様のお宅に伺い百人百色の人生模様を実感させてもらい、週末はまたけっこう年齢層の高い皆さんに混じってバレエ教室で違った味のなかで過ごす。

もう若い頃のように無茶はしない、納得づくで手に入れた今の生活、今のペースを大事にしたいのだ。「日々粛々、平凡に、しかも自分らしく」過ごす。これがいちばん好きなフレーズだ。

わたしのこの一枚

フットサルの募集

近森病院作業療法士 細川 忠まこと



OT 真鳥伸也

OT 川崎陽嗣

OT 矢野勇介

PT 平山 肇

近森の理学療法士・作業療法士で作ったフットサルチーム (BIG FOOT) です。チームができてから早5年！全盛期は2年前、県リーグ4位になる実績を持っていますが、最近は、高齢化が進み体力的な低下と無茶な人間が多く怪我人も増え勝率がさがってきています。今では、「古豪！」もしくは「昔は強かったのに……！」など言われているような……気分。

で、チームの建て直しをしていますので、興味のある方は選手、マネージャーを問わず募集中です。作業療法士・細川までぜひご連絡下さい。(私は決して無茶な人間ではありませんが、上の撮影の時ちょうど怪我をしております…)



tel. 088-872-8238
fax. 088-822-0058

シリーズ●クリニック探訪30

つちばし診療所

高知市本町一丁目。商工会館東隣

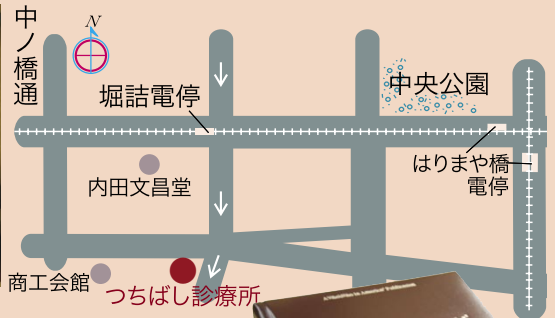


▲院長・武市牧子。S 36年6月16日、高知市出身。趣味は英会話、洋画鑑賞。



▲バレンタインカラーの待合室で集合

院長は相変わらず医者と学者の二足のわらじ状態です。世界人名辞典(ザ マーキュイズ フーズ フー)では米国(06-07)・アジア(07年度初版)に続き、世界版(08.07年末発表)に、医学者として選ばれました。その辞典には世界レベルの発見として①アトピー性皮膚炎に対する治療法②花粉症治療における免疫性化学的メカニズムの解明の2点が挙げられております。研究活動を臨床にいかにかかすかが武市院長の一貫したテーマです。アトピーや花粉症の根治を願う方、一度ご相談下さい。



▼世界人名辞典(ザ マーキュイズ フーズ フー)

2008年 1月の 診療数	近森会グループ		企画情報室
	外来患者数	17,097人	
	新入院患者数	609人	
	退院患者数	540人	
	近森病院		
	平均在院日数	15.23日	
	地域医療支援病院紹介率	83.82%	
	救急車搬入件数	446件	
	うち入院件数	220件	
	手術件数	327件	
うち手術室実施	234件		
うち全身麻酔件数	153件		

ニューフェイス ①所属②出身地③最終出身校④家族や趣味のこと、自己アピールなど



たにむら まさのぶ①泌尿器科 医師②高知市③高知医科大学医学部医学科④最近メタバが心配になっておりますが、ゴルフ始め基本的に何でもしますので、お暇な時は遊んであげてください。

谷村 正信

図書室便り

(2008年1月受入分)

- ・ ATLAS OF MITRAL VALVE REPAIR / EDWARD B.SAVAGE (他著)
- ・ SURGICAL ANATOMY OF THE HEART 3rd EDITION / BENSON R. WILCOY (他著)
- ・ RADIOLOGY REVIEW MANUAL 6th EDITION / WOLFGANG DAHNERT
- ・ 腎癌診療ガイドライン 2007年版 構造化抄録 CD-ROM付 / 日本泌尿器科学会(編集)
- ・ HANDS-ON BOOK 循環器疾患・インターベンションのためのMDCT 虚血性心疾患から不整脈、大動脈疾患まで / 児玉和久(監修)
- ・ 症状別看護技術 / 荒尾春恵(他編集)
- ・ 別冊 ナーシング・トゥデイ 12 Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用 / パトリシアJ. ラーソン(他編集)
- ・ 第38回 日本看護学会論文集(看護総合・精神看護) / 日本看護協会(編集)
- ・ UICC TNM 悪性腫瘍の分類 第6版 日本語版 / 日本TNM分類委員会(訳)《寄贈本》
- ・ 健康きらら / 岡林旬子《別冊・増刊号》
- ・ EMERGENCY CARE 2008年新春増刊 わかる 使える 取り組める! 救急ナースのための栄養投与マニュアル アセスメントから手技の実践まで / 長谷部正晴(編集)《ビデオ・DVD》
- ・ AUDIO-VISUAL JOURNAL OF JUA Vol.13 No.4 / 日本泌尿器科学会(監修)

バレンタイン献血御礼

2月14日(木)、新館玄関前で恒例のバレンタイン献血を行ないました。院内外から96人の方が駆けつけてくださり、200ccを42人、400ccを50人、合計92人の方々から貴重な血液を提供していただきました。ご協力ありがとうございました。血液センターの皆さま、受付を手伝ってくださった総務課の皆さま、お疲れ様でした。



編集室通信

▼誌面が溢れるのは嬉しい限りですが、小説作成の作法に至るまで事細かに承ったのに、誌面の都合で原田信子さん関係の記事が予定の半分になりました。次の機会を楽しみに、この場をお借りして小さくなった記事のお断わりです。(乙女)